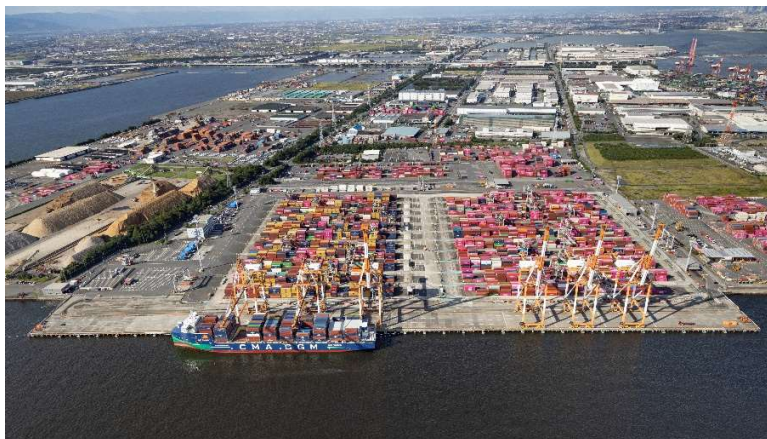


物流機能が広がる「西部地区」

飛島ふ頭南側コンテナターミナル



【港内位置図】

ITを活用した高規格CT

実験的・画期的施策でこれからの名古屋港を先導

年々加速するコンテナ船の大型化とコンテナ貨物の増加に対処するため、高規格で高効率化を目指したコンテナターミナルとして整備されたのが飛島ふ頭南側CTです。

船社・港運・荷主系物流会社からなる10社が共同で民間ターミナル運営会社を設立し、CTの運営はもちろん、ガントリークレーンなど一部の施設整備も自ら行っています。

当CTは、水深16m、総延長750mの耐震強化岸壁、22列対応の超大型ガントリークレーン、奥行500mの広大なコンテナヤードを備え、ITを活用して効率的な運営が行われています。その一つが、世界初となる遠隔自動RTG（ラバータイヤ式ガントリークレーン）の導入です。

遠隔操作室のオペレーターが、モニター映像を確認しながら無人の自動RTGを操作することによって、飛躍的に作業効率が向上しました。

また、ガントリークレーンと荷さばき地との間のコンテナ輸送には、自動制御で往復する自動搬送台車（AGV）を導入し、ガントリークレーンやRTGとの連携によりさらなる荷役作業の効率化が図られています。

さらに、令和6年度から荷役機器等の作業状況を踏まえた荷役指示最適化に関する技術開発が進められております。



CT運営者

名称	飛島コンテナ埠頭株式会社（TCB）
出資会社	川崎汽船(株)、(株)商船三井、日本郵船(株)、旭運輸(株)、伊勢湾海運(株)、(株)上組、東海協和(株)、(株)デジタルスコーポレーション、名港海運(株)、飛島物流サービス(株)

飛島ふ頭南側コンテナターミナル施設概要

	TS1 岸壁 耐震強化	TS2 岸壁 耐震強化
供用開始時期	平成 20 年 12 月	平成 17 年 12 月
総面積	361,549 m ²	
岸壁		
形式	横棧橋	
延長	750m	
水深	16m	
エプロン幅	57m	
コンテナヤード		
蔵置能力	4,963GS	
ガントリークレーン		
基数	6 基(免震)	
到達距離	22 列・6 段×6	
最大巻揚荷重	77.6t×6	
アウトリーチ	63.0m×6	
形式	ロープトロリー式モノボックス型	
トランスファークレーン：ラバータイヤ式ガントリークレーン（RTG）		
基数	25 基	
自働搬送台車（AGV）		
台数	34 台	

計画岸壁

TS3 岸壁 耐震強化	
延長	400m
形式	横棧橋
水深	16m

エリア基本データ

ふ頭名称	飛島
旧名称	西4区
臨港地区面積	514.1ha
埋立完成時期	昭和45.8.19～平成20.9.19
バース水深	10～16m

専用ターミナル（飛島ふ頭南側CT）

係留隻数 358隻

取扱量と品種

